



圏域の人

このコーナーでは、在住の外国の方や、世界と関わる活動をされている方からの記事をご紹介します。

都城市消防局の児玉徹さんの記事です。2回に分けてお伝えします。

Hola !Como Estan?

皆さん、こんにちは!はじめまして。私は、都城市消防局に勤務している児玉徹と申します。年齢は54歳です。消防士になって30年になります。私は今まで沢山の災害現場に出動し、消防士としていろいろな経験とさまざまな活動をしてきました。それらの消防で培った経験と知識を生かして国際貢献や国際交流、さらには、外国の消防の実情をこの目で見てみたいという一心で、JICA(独立行政法人国際協力機構)の事業である「JICA海外協力隊派遣」のボランティア事業に応募し、2年間のボランティア活動を終え、今年の3月末に帰国しました。今回その活動の一部を皆さんにご紹介したいと思います。

私が派遣された国は、中南米の「コロンビア共和国」です。通称コロンビアは、南アメリカ北西部に位置する共和制国家で、東にベネズエラ、南東にブラジル、南にペルー、南西にエクアドル、北西にパナマと国境を接しており、北はカリブ海、西は太平洋に面しているところです。私の現地での仕事は、コロンビア消防庁に籍を置き、「防災・災害対策」に関する事、具体的には危険物・危険物施設における災害対策及び消防全般における助言や指導を行うものでした。

まず、初めにコロンビアでの生活、習慣そして文化を皆様にご紹介したいと思います。

「それでは、皆さんコロンビアと聞かれると何をイメージされますか？」まずは、何と言ってもコーヒーではないでしょうか？現在コロンビアのコーヒー豆生産量は、ブラジル、ベトナムについて世界3位となっています。特に山岳地方を中心にコーヒー豆の栽培が行われています。そのおかげで、職場ではいつでも自由においしいコーヒーを飲むことが出来ました。また、お店で「ティント」と言えば、おいしいブラックコーヒーを飲むことが出来ます。金額は日本円にして約100円程度。ちなみに職場の仲間は、ブラックコーヒーではなく、砂糖を沢山入れた、ものすごく甘そうなコーヒーをよく飲んでいました。食事の後にも当然コーヒーを飲みますが、その時に「デュルセ」と呼ばれる、これまた甘いお菓子と一緒にコーヒーを飲むというのが定番となってい

ました。世界共通、食事とお菓子は別腹なんだなあと感じる一コマでした。また、現地の男性も女性も大柄の人が多いのはこの甘党系の食文化のせいなのかなと思いつつも、私のおなかもこれ以上大きくならないように、と気を付けながらの食生活になりました。



▲コーヒー農園での一コマ

次にイメージされるのはサッカーではないでしょうか？皆さんも熱狂的なサッカーファンをテレビ等で良く目にしていないと思います。時には、それが、暴動とまではいかないまでも、騒ぎをおこしている映像を見たことがあると思います。まさにその通りです。コロンビア国民のサッカーに対する情熱は並々ならぬものを感じます。私も現地に行ってみましたが、ありとあらゆる広場がサッカー場になっています。その数の多さにビックリしました。日本では野球が国民的スポーツであるのに対して、コロンビアはサッカーという感じです。幼いころから女性を含めてサッカーに慣れ親しんでいるので、老若男女問わずルールにも詳しく、プレイも非常に上手です。私も何度かサッカーをする機会がありましたが、全然相手にしてもらえず、悔しい思いをしました。

サッカーの国際試合などがある日は、もう大変です。国全体がサッカーの応援という感じで、仕事は二の次になります。街中では、行きかう人々はコロンビアチームと同じユニフォームを身にまとい、車のクラクションやブブゼラと言われる応援用のラッパの大きな音がどこからともなく聞こえてきます。アパートの窓からは国旗を振って応援している人も多く見かけます。今日はフェスティバル?と勘違いするくらいです。コロンビア人の熱狂的で陽気な、そしてお祭り好きな国民性を垣間見ることが出来ます。

私が赴任して3か月が過ぎようとしていた2018年の6月に、サッカーのワールドカップの試合がありました。そのカードが何と素晴らしいことにコロンビア対日本でした。皆さんもご記憶にあると思います。当然のことながらコロンビア

ではその日も朝からサッカー一色でした。街中ではコロンビア国旗を掲げて国民みんなが応援していました。私たち日本人も負けてはいられないと、コロンビア在日大使館の一角に設けられたパブリックビューイングで、完全にアウェー感をひしひしと感じながらも、コロンビアサポーターと日本サポーターが一緒になってそれぞれ自国の応援を



▲試合のある日の職場の様子

しました。何と何とその甲斐あってか我が国日本が勝利を収めたではないですか。しかし、喜びもつかの間、「この後、大丈夫かな？歩いて帰れるかな？ここは、コロンビアだ。」と一抹の不安が頭をよぎりながらもビューイングに訪れていた沢山のコロンビアサポーターとお互いの健闘を称えあい、沢山の握手やハグでその場は無難に会場をあとにすることができました。そして、不安を抱きながらの一人の帰り道その時はやってきました。突然すれ違いざまにちょっと怖そうな、いかつい顔のお兄さんに「お前は日本人か？」と声をかけられました。きた、きた、ドキドキ、「やばい、このまま言葉がわからないふりをして無視して逃げようかな？まだ、スペイン語もうまく喋れないのにどうしよう。」一瞬、間があき、私が戸惑っていると、彼はにっこり微笑んで「今日のサッカーの試合は素晴らしかったな！おめでとう！」と声を掛けられ、握手をして、そそくさと立ち去っていきました。本当にほっとしたのと、少しうれしかったのを覚えています。コロンビアの人は気さくで、優しくて人懐っこいなあと一瞬でした。

他には、マフィア、麻薬、治安が悪そう、そういうイメージもあるかもしれませんが。しかし、最近では、政治も安定してきて、治安は私たちがイメージしているよりも良くなって

きている印象を受けます。街中には多くの警官が配置されていて、常に市民をあらゆる犯罪から守ってくれています。そして、目につくのが日本人にはあまりなじみのない銃の存在です。警官は当然ですが、アパートや事務所の警備員に至るまで男女を問わず、拳銃を所持しています。特に、銀行やATMといった現金を扱う警備関係者は常にライフル等の大型の銃を所持しています。たまに軍隊が警備をしている姿を見かけましたが、軍隊が所持している銃は大変強力そうに見えました。威圧感は半端ありません。しかし、だからといって安全というわけではありません。油断は禁物です。犯罪の数は日本と比べるとまだまだ多いのも事実です。強盗やスリといった犯罪は日常的に発生しています。ここで私が現地で犯罪にあわないように常日頃から実践していたことを紹介します。まず、日本人だとわからないようにする。現地の人から言わせると日



▲街中の警備の様子

本人と言うだけでお金を持っていると思われるそうです。つまり、コロンビア人になりきる。現地にうまく溶け込む。男性は髪を短くし、洋服など綺麗なものを着ない。少々くたびれて、汚れているよう

なものを身に着け、お金持っていないオラを出す。時計、カバン、バッグなど高そうなものを持ち歩かない。財布は当然持ち歩かない。毎日2,000円程度の現金(はだか銭)と身分証明書のみをポケットに入れて外出する。一人で歩いているときは常に周囲に気を配り、常に後ろを振り返る。携帯電話を街中で使用するのほもつてのほかです。私は幸運にもこのおかげで犯罪に巻き込まれることはありませんでしたが皆さんも是非海外に行かれる際は実践してみてください。日本より治安の良い国はありません。

～次号へつづく～



「モンゴルの観光地：イヘ・ブルハント」

～都城市モンゴル国際交流員 ソヨルマーさんによるモンゴル紹介～



モンゴルの東の末端にある国境の町ドルノド県ハラフゴル村には、「イヘ・ブルハント」というドルノド県民をはじめ、モンゴル人の好きな観光地があります。名前の「イヘ・ブルハント」を、日本語に直訳すると「大きな神様」という意味です。海拔655mのところから東方から西北方向に向けて作られた、イヘ・ブルハントを遠くから見ると大草原に立体感を生み出し、とても綺麗に見えます。

イヘ・ブルハントは、1859-1864年の間に自然の石を土に埋め込み、埋め込んだものを彫刻する方法で作られました。19世紀の半ばごろモンゴル・ロシア・中国3か国の国境が隣接する町の周辺に、雪害、干ばつが続き、家畜

もたくさん死んでしまいました。作物の収穫も減り、人々の生活が大変苦しくなりました。そのような厳しい状況乗り越えるために、今の県知事にあたる人が、一般の人々から寄付を集め、高さ6mぐらいの観音像を作らせましたが、途中で壊れてしまいました。当時の人たちが話し合い、地域の神様が怒って、こんなことになってしまったのだと、場所を移動させて作るようになりました。2年間掛けてやっと完成に近づいた頃、観音像は洪水の被害を受けて、一部が流されてしまいました。

三度目の挑戦で、現在の「イヘ・ブルハント」がある場所の山の斜面に沿って、長さ30メートルの観音像が作られました。

1940年代の初頭ごろ、人民改革により数多くの仏教のお寺・仏様が古い社会の不要なものと判断され、歴史的、宗教的な遺産がたくさん消滅させられたり、崩壊されたりしました。イヘ・ブルハントも影響を受け、一部が破壊されました。1990年の民衆主義の影響を受け文化遺産として復元され始めました。

編集部より

暦の上では「晩夏」でも夏はまだこれからです。「海だ!山だ!」&「ビールだ!!焼肉だ!!」と楽しい季節だから、ステイ・ホーム期間中に肥えた体を緑濃い山や青い海でシェイプアップしたくても、なかなか思うようにはいきません。そのせいか手持ちの服が窮屈になってきました。その点、日本の伝統衣装「浴衣」は太めの体でも優しく包んでくれる素晴らしいアイテムです。仕事も浴衣で出来たらいいのに…。

[池田]

37350278←ミナサンコンニチハ 先月のクイズお分かりになりましたか? 答えは、記事の最後で。

先月、先々月の記事は、数字にちなんだテーマにしてみました。今回は『自分が小さい頃の遊び』について、昔を思い返しながら、記憶のかぎりお話しします。

今では、スマホや携帯ゲーム機などいつでも、どこでも遊べるものが主流ではないでしょうか? スマホの場合、4G回線などの通信システムを利用して、不特定の人たちと対戦できます。「対戦」で思い出しましたが、小さい頃、対戦ゲームで「ドンケツゲーム」や「ボクシングゲーム」というのがありました。

「ドンケツゲーム」はボタンを押すとお尻を突き出す人形が、背中合わせに2体並び、お尻の部分で押されると、人形が崩れて負けとなるゲーム。「ボクシングゲーム」も同じく、ボタンを押すと、ボクサー人形が拳で相手にパンチを浴びせる。そして、崩れ落ちると負けになるというゲームだったと思います。

シンプルかつ分かりやすいゲームでしたが、夢中になった小学校の低学年時代でした。

みなさんご存じですか? このゲーム?

先月のクイズ【59319414042】の答えは、
【5コ9ク3サ1イ9カ4ス1イ4シ0ン4シ2ツ】でした。



[西畑]

「森のバター」アボカドが大好きです。アンチエイジング栄養素で有名なコエンザイムQ10も豊富に入っているそうです! 美味しくいただいた後の種、「ちゃんと育てれば芽が出てかわいいよ～」と池田室長から聞いて、水耕栽培にチャレンジしてみました。毎日せっせと水を替え、まだかまだかと待ちわびてたところ、芽はまだ出ませんが下から根が出て来て感激しました! 一粒で二度美味しいとはこのことですね♪

[山内]

今年、初めてあじさい公園に行きました。見ごろの時期でしたのでとても綺麗で、週末でもあったため、お客さんもたくさん来ていました。Stay Home的な週末が多かった中で、久しぶりに観光地気分を味わった一時でした。

花はもちろん綺麗でしたが、ほんのり優しい香りが漂う公園の空気が最高でした。その日の夜に、鳥取県に住んでいる友達に連絡を取ったら、友達もその日鳥取のあじさい公園を楽しんでいて、「帰りに、好きな

あじさいをご自由にどうぞ、と言われたので、たくさん持って帰ったよ」と自慢していました。

[ソコ]

最近、中国の「微博(ウェイボ)」: ツイッターと似ているSNSで都城市のアカウントを開設しました。都城また日本の魅力を中国のみなさんに届けるために情報発信をしています。内容は写真付きの観光名所、食事、祭り、生活、文化など色んな分野の紹介です。ちなみに今まで掲載した一番人気の内容は、ぼんちくんの紹介でした。閲覧者は4000人を突破しました。皆さん、もし何かいいネタがありましたら、ぜひ教えてください!

[銭]

先月の謎はどうでしたか、皆さん? 解けましたか? ヒントが多すぎて、解きやすかったですか?

正解は「写真」です!

1) ブラジルのカヤポ民族やオーストラリアの先住民アボリジニにとって、写真は撮られた人達の魂が写真の中に閉じ込められると考えられています。

2) 写真を撮ると、どのぐらい時間が経っても中身は絶対に変わらないです!

3) 「千の言葉の価値がある」というのはよくある英語の諺 A picture is worth a thousand words! です!

では、また来月、もっと難しい謎をお楽しみに!

[ジョージ]

時の流れについて一言。

昨年末、3度目の成人式を家族で迎えることができ、喜びとともに月日の経つのが早くなったと感じてしまいました。

例えば、選挙の投票所で事務をするとき、市役所に入ったばかりの頃は投票所での仕事が非常に長く感じていましたが、時間が経って投票管理者として関わる頃には、いつのまにか終わったと感じるようになっていました。

何故、年を取ると時間の経つのが早くなるのかなと考えたら、それは人間は歳をとるとともに感動を感じなくなってしまうからと私なりに思います。若い頃には自分を取り巻く些細な出来事にも何かしら感動みたいなことを感じていたような気がします。

年を取るとともに感動が無くなり、やがて認知症になってしまう!

認知症になりたくないから今日から感動探しに市役所の中を探検に行こうかな!?

[田中]

エコバッグを使う機会がとて増えました。オーストラリアの人から貰ったエコバッグに、持ち手のところが長くて、肩に掛けても、けっこう下の方までくるのがあります。こんなデザインのバッグなんだと思っていましたが、ちょっと前に貰った別のバッグも似たようなデザインだったので、これは、おしゃれなデザインじゃなくて、その国の人の背の高さに合わせた標準の長さだということに、今頃になって気付きました。

[迫田]